

STEP  
06

## 期末レポートを書いてみよう

C型「資料引用をふまえた説明文」の練習、文献引用・ネット引用の方法、レジメの作成

- ・期末レポートを想定し、資料引用をふまえた説明文レポート（C型）を書いてみます。
- ・ネット引用の方法の解説や発表用レジメの作成も含めて、4回分の授業を割り当てています
- ・レジメも「STEP 06.1」から「STEP 06.4」までの4本あります

## 準備

- ・レジメ（4本）+資料（4種）（全14ページ）
- ・ワークシート（レポート原稿）

## + 進め方（1週目）

- ・STEP 06.1 のレジメを使います。
- ・期末レポートに多いC型「資料引用をふまえた説明文」の構成について説明し、実際に「序論」「本論1」まで書きます。

## 2. 今回の課題

- ・資料1、資料2、資料3が続けざまに出てきます。
  - 資料1、資料2はソーシャルビジネスの説明、資料3はこれから学生が書くレポートの執筆例です。どれも後で、必要なタイミングで読みます。
  - 今は、そういう資料があることだけ確認して、話を先に進めてください。

## 3. 今回の作業

- ・序論と本論1までを書きます。
  - とは言え本論1までは、レポート原稿（ワークシート）にすでに書き込み済みです。伏字になっているところだけ、資料1（p.9）からの引用で学生に埋めさせます。
  - 資料1、資料2は、このタイミングでしっかりと読ませます。資料3は次回読みます。
- ・3-3、本論1（用語の説明）を書くところで、**ネット引用を禁止**し、代わりに「授業で先生が話し、あなたがノートに取ったもの」を「自分なりにまとめればいい」と書いています。
  - これは私が強く思うところです。
  - 重要な学術用語であるほど多くの議論が重ねられているはず。その結果、時代によって、主義主張によって、研究者によって、さまざまなブレを持っているはず。それはその学問の分厚さを意味するもので、本当ならすべて詳しく説明したいところです。しかし授業では、時間的制約から、また他の回の内容とのつながりも考えて、学生にいちばん分かりやすい形で解説しているわけです。
  - それをネット引用で、それも検索で一番上位に出てきたサイトの文章を貼り付けるような乱暴な引用で説明されると、各回につながり、つまり授業全体の文脈や論理が成り立たなくなります。ネット引用で説明された用語は、たくさんのブレの中のひとつという意味で「間違い」ではないけれど、しかし適切ではない引用です。その授業における一番適切な説明は、授業の中で受けたはずの説明です。それを書けばいいだけです。
  - 「授業の理解度をアピールして高得点をねらうなら、特に指定がなくても、用語説明は授業内容を参考にすべき」という言い方をしたら、学生には伝わりやすいかもしれません。

- ・とはいえ今回は、用語説明の文章は用意されています。学生がすることは文章中の伏字部分（XXXXX）を資料1からの引用で埋めるだけです。

→正解はありませんが、こんな感じでしょうか（下線部が伏字だったところ）：

現代ビジネス論 期末レポート

ソーシャルビジネスとは

XXXXXXXX 山手大介

このレポートでは「ソーシャルビジネス」とは何かを、授業内容に基づいて、また具体例を挙げながら説明する。

第3回授業で配布された資料によれば、ソーシャルビジネスとは「様々な社会的課題（高齢化問題、環境問題、子育て、教育問題など）を市場として捉え、その解決を目的とする事業（経済産業省2011：4）」のことである。そこには3つの要件があるという。第一は社会性、つまり「現在、解決が求められる社会的課題に取り組むことを事業活動のミッションとすること（同上）」である。第二は事業性、つまり「ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくこと（同上）」である。第三は革新性、つまり「新しい社会的商品・サービスや、それを提供するための仕組みを開発したり、活用したりすること。また、その活動が社会に広がることを通して、新しい社会的価値を創出すること（同上）」である。

このようにソーシャルビジネスとは、社会問題をビジネスのかたちで解決していく試みのことである（社会性）。その事業活動は、無償のボランティアや行政からの資金援助などに頼るのではなく、ビジネスとしてあげた収益によって継続される（事業性）。もちろん社会問題をビジネスの仕組みにうまく結び付けるには、革新的な商品やサービスを考え出す必要がある（革新性）。

## 進め方（2週目）

- ・STEP 06.2 のレジメを使います。
- ・本論2で使う、ソーシャルビジネスの具体例をネットで探します。

### 1. 作業再開

- ・レジメにも書きましたが、ここで資料3「**レポートの執筆例**」(p.11)をしっかりと読ませます。  
→なお、執筆例に出てくる「ちゃりぴつプロジェクト」は架空のものです

### 2. 今回の作業

- ・2-1、2-2を説明した後、各人に作業をさせてください。

→「ソーシャルビジネス」で検索してトップに出てきたものを選ぶ、**というわけにはいかないこと**、条件に合うかどうか、自分で読んで**取捨選択をする必要があること**を体験させてください。3への伏線です。

→なかなか見つからない学生には、レジメで紹介しているボードレス・ジャパンの「[ソーシャルビジネス紹介](#)」というポータルを紹介してください。

### 3. 検索上位のサイト ≠ 使えるサイト

- ・レジメに書いた通りです。学生はどれも、検索で上位に出てきた情報を「正しいもの」と信じてしまうようですが、そうではないこと、きちんと自分で取捨選択する必要があることを理解させてください。

## 進め方（3週目）

- ・STEP 06.3 のレジメを使います。
- ・前回ソーシャルビジネスの具体例を引用しながら、本論2を書いています。

### 2. ウェブサイトを引用しながら本論2を書く

- ・大学1年生の中には、ネットからコピーしてきた文章を、ところどころ語尾を変えたり削除したりすることで、「自分の文章になった」と考えている者がいます。

→一応レポートの最後に、「参考にしたサイト」なるものが書いてあったりするのですが、本文中ではどこが引用部分なのかわかりません。これは、他者の書いた文章を自分の文章のように見せかけている点で、明らかな盗用です。試験でいえばカンニングと同じですから、0点をつけられてもおかしくない行為です。

- ・この教材では「正しいネット引用の方法」を、「**字下げによる直接引用**」「**引用文の前後に、自分の言葉で導入の文章、要約の文章をつける**」としています。

→具体的には資料3の執筆例をみてください。

→要約による間接引用は、ネットからの引用の場合、上記の盗用を引き起こしがちです。少なくとも大学生には禁止させる方が良く私は考えます。

- ・「**注意点3**」について：

→ネットからの引用は簡単な作業なので、複数の段落を含む大きな文章のカタマリを、ついつい貼り付けてしまう学生もいるでしょう。

しかし複数の段落を含むということは、**そこに論理的な構造があるということ**です。それをレポートに挿入すると、学生の論理構造の上に引用文が乗る形ではなく、学生の論理構造が**途中で別人の論理構造に接木された形**になります。なぜ時間と手間をかけて、学生の論理構造ではなく、見知らぬどこぞのサイト執筆者の論理構造に成績をつけねばならないのか、むなしい気持ちになります。

→「論理構造」という説明は学生には伝わらない気がしたので、「注意点3」では、ネットからの引用文はこまめに区切って、そのつど自分なりの「導入文」と自分なりの「要約文」ではさみこみなさいという説明をしています。

### 3. 結論を書く

- ・結論部分は、p.7 の文章を丸写しにて、伏字部分だけ自分で考えた言葉を入れます。  
→正解というものはありませんが、たとえば以下のような感じでしょうか（下線部が伏字だったところ）。

以上に説明してきたように、ソーシャルビジネスとは、様々な社会問題をビジネスの  
かたちで解決していく試みのことである。

---

#### 進め方（4週目）

- ・今回書いたレポートの発表に使う「発表レジメ」を作らせます。**STEP 06.4** のレジメを使います。  
→前回完成したレポートのコピーを取り、コピーの方を改造して発表用のレジメを作る回です。  
→レポートのコピーをとるのを忘れて、ひとつしかないレポートをうっかりレジメに加工してしまわないよう、  
学生には念を押してください
- ・まだレポートが書けていない学生は、そちらを優先させてください。
- ・おまけのような回なので、発表する必要がなければ飛ばしても構いません。